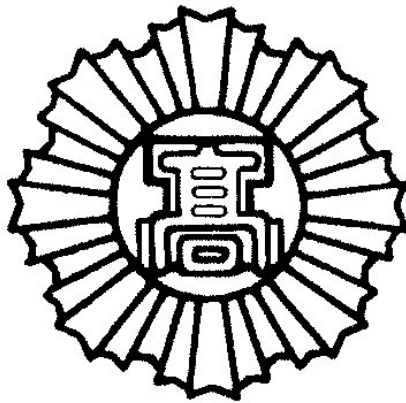


平成 29 年度  
学校評価結果報告書  
(年度末評価)



広島県立広島工業高等学校

## 目 次

- 1 様式5【平成29年度自己評価シート（年度末評価）】・・・ 1
- 2 様式6【平成29年度自己評価シート（年度末評価まとめ）】・・・ 9
- 3 様式8【平成29年度学校関係者評価シート（年度末評価）】・・・ 13

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1							
各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を増やす。	認定者数	46 人	48 人	52 人	A	(教育研究部) ジュニアマイスター前期ゴールド10人、シルバー13人 計23人 後期ゴールド11人、シルバー18人 計29人 合計52人 (2学年会) 学年会では年間を通して、資格・検定取得及び、ジュニアマイスター認定に係る啓発活動をした。	教育研究部 2学年会
ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。	中国大会・全国大会の出場数	中国大会	中国大会	中国大会	B	(機械科) 若年者ものづくり競技会フライス盤作業で敢闘賞に入賞。高校生ものづくりコンテスト中国地区大会旋盤作業部門3位に入賞。	工業科
		8	9	9			
		全国大会	全国大会	全国大会			
		7	7	7			
ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。	中国大会・全国大会の出場数	中国大会	中国大会	中国大会	A	(建築科) 高校生ものづくりコンテスト全国大会木材加工部門と、若年者ものづくり競技大会職種建築大工に出場した。	工業科
					B	(土木科) 高校生ものづくりコンテスト全国大会に出場したが、入賞できなかった。	

						A	(化学工学科) 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門の中国大会で1位と2位に入賞し、全国大会への出場権を獲得した。全国大会では優勝と、3位に入賞した。	
	工業分野の有識者と連携し、実践的な知識・技術・技能を身に付ける。	社会人講師を活用した授業数	10回	10回	11回	A	SET(Super Engineering Teacher)や熟練技能者を招聘し、技能向上のための授業及び部活動指導を計画どおり実施した。	工業科
	各学科が推奨する工業分野の資格を取得する。  機 械 科:技能検定(普通旋盤2・3級, 鋳造2・3級, フライス盤作業2・3級, 機械検査作業2・3級, 機械プラント製図2・3級)  電 気 科:第1種・第2種電気工事士 建 築 科:建築施工管理士2級+技能検定(左官2・3級, とび2・3級, 建築大工2・3級) 土 木 科:2級土木施工管理技術検定+測量士, 測量士補 化学工学科:危険物取扱者	資格取得した生徒数	72人	107人	70人	B	(機械科) 技能検定の状況 2級技能士 4/9人 3級技能士 66/89人 合計 70人合格した。	工業科
99人			99人	108人	A	(電気科) 第二種受験結果 77人, 第一種受験結果 31人, 合計 108人が合格し, 成果を得た。		
56人			80人	73人	B	(建築科) 2級建築施工管理技術検定7人, 建築大工3級 16人, 2級 10人, とび3級 12人, 左官3級 13人, 建築CAD検定3級 13人, 2級2人, 計 73人が合格した。		
6人			8人	19人	A	(土木科) 測量士補 7人, 2級土木施工管理技術 12人, 合計 19人が合格した。		
6人			10人	19人	A	(化学工学科) 危険物取扱者甲種 1人, 乙種 18人, 合計 19人が合格した。		

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52人以上とする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

○ジュニアマイスター顕彰については、前期にゴールド、シルバー合わせて23人、後期に29人、合計52人が認定され、認定者数は過去最多になった。また、ジュニアマイスター顕彰制度では、ある一定以上の得点等を取得するなど、条件を満たせば特別表彰され、本校では、5名が表彰された。

○取得できる資格・検定の試験日程一覧表を年度当初に作成し、クラスへ案内・掲示し、生徒に受験意識の醸成を図った。

○資格取得ネームプレートの掲示を本年度5月から開始し、随時更新することにより、生徒に対し資格取得に挑戦する意欲の高揚を図った。

(2) 課題

○ジュニアマイスター認定に向け、生徒各自の意識を高めていく取組みが必要である。

【今後の改善方策】

○来年度当初のLHRにおいて、生徒に資格・検定の取得計画を作成させ、受験意識の醸成を図る。

○資格取得において、顕著な成果が得られた場合には、ホームページに随時掲載し、生徒の資格・検定取得にチャレンジする意欲の高揚を図る。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門全国大会に出場し、見事優勝そして3位入賞を果たした。
- 若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として出場した。また、その生徒は高校生ものづくりコンテスト木材加工部門全国大会にも出場した。
- 若年者ものづくり競技会 職種フライス盤作業に出場し、敢闘賞に入賞した。
- 高校生ものづくりコンテスト 測量部門中国地区大会では4年連続で優勝し、全国大会に出場した。
- 全日本ロボット相撲大会中国大会高校生の部に出場し、4位になった。
- ジャパンマイコンカーラリー2018 中国地区大会アドバンス部門に出場し、優秀な成績で、全国大会に出場した。

(2) 課題

- 高校生ものづくりコンテスト全国大会には出場ができるレベルにはなってきたが、出場する選手の技術・技能は年々向上しており、簡単に上位に入ることが難しくなっている。上位入賞する選手を育成するためには、生徒の指導方法を工夫・改善する必要がある。
- 全国大会レベルの高い技術力の向上のためには、生徒を教える教職員の技術力、指導力の向上も必要である。

【今後の改善方策】

- 加工及び作業の精度を上げるとともに、スピードアップも図るなど、すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用し、生徒の技術力向上に取り組むとともに、その指導方法を学び、教職員の指導力向上にもつなげる。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- SETIには、授業や放課後に通じて、生徒に広島県版技能検定、国家技能検定対策に係る指導をしていただいた。
- SET、企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。

(2) 課題

- 生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるとはせず、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

【今後の改善方策】

- 教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、指導力を高め、SET と協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。
- 教職員が、SET、企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2 級技能士旋盤作業 (3/5), 2 級技能士フライス盤作業(1/2), 2 級技能士鋳造作業 (0/2), 3 級技能士旋盤作業(24/28), 3 級技能士鋳造(10/10), 3 級技能士機械検査(30/48), 3 級機械プラント製図(2/3)	70人
電気科	第2種電気工事士(合格 77 人/85 人 : 上期合格 73 人/81 人: 下期合格 4 人/4 人) 第1種電気工事士(合格 31 人/49 人)	108人
建築科	2級建築施工管理技術検定7人(受検 89 人), 建築大工3級 16 人(受検 20 人), 建築大工2級 10 人(受検 10 人), とび3級12人(受検12人), 左官3級13人(受検 13 人), 2級0人(受検1人), 建築CAD検定3級13人(受検 13 人), 2級2人(受検 3 人)	73人
土木科	測量士補 7 人(受検 10 人), 2級土木施工管理技術検定 12 人(受検 20 人)	19人
化学工学科	危険物取扱者 甲種 1 人(受検 1 人), 乙種 18 人(受検 61 人)	19人

(2)課題

- この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるが、指導できる教員の数とその指導力向上が必要である。
- 資格・検定取得が継続的な取組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のための指導及び啓発活動が必要である。

【今後の改善方策】

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

2 選ばれる学校づくり							
入学希望者の増加を目指す。	入学者選抜 I・II 平均倍率	1.28	前年度以上	1.33	B	(総務部) オープンスクールを計画どおり1日午前午後2回、2日間に渡って実施した。中学校訪問は2回実施し、学校をPRするポスターを作成し、中学校へ配布するなど、広報活動を実施した。	総務部
	運動クラブ入賞・優勝数	県大会 36 中国大会 15 全国大会 3	県大会 前年以上 中国大会 前年以上 全国大会 前年以上	県大会 49 中国大会 14 全国大会 6	A	(総務部) 県大会入賞数は昨年度を大きく上回った。中国大会・全国大会の出場者数も増加した。	
	クラブ加入状況	91.5%	前年以上	90%	B	(総務部) 部活動加入率は昨年度より若干下回っているが、高水準は維持している。	

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- オープンスクールへの参加人数は広島県内の中学生が減少する中、昨年度と同水準の参加数となり、上記入学希望者数へと結びついた。
- オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は 98.6%で昨年度を上回ることができた。
- 入学者選抜 I・II は昨年よりも 0.5%増加した。

(2)課題

- オープンスクールにおいて、中学生参加人数増加に向けた取組みが必要である。
- HPの更新回数は増えたが、“中学生が見たい”と思う、Web ページの更新は不十分であった。

【今後の改善方策】

- 中学生を対象にPRするために、中学2年生から本校を検討してもらう機会として、冬季オープンスクールの実施を計画する。
- 来年度オープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。
- 中学校訪問については、中学校との窓口になる担当者を決め、情報提供を適宜行い、信頼関係を築く。その上で、中学校主催の高校説明会への参加や、本校出前授業の受入れを中学校に提案し、検討いただく。
- HPには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。

＜クラブの活性化＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 全国大会出場は昨年より増え、中国大会出場については昨年度並みである。県大会入賞数は目標を大幅に上回った。
- 各学年の加入率は、1年生 91%、2年生 87%、3年生 89%と、昨年度より若干減少したが高水準を維持している。

(2) 課題

- 部活動に入部していない生徒に対して、入部させ活動させることが課題である。

【今後の改善方策】

- 部活動に加入していない生徒には、担任、副担が学年会と協力しながら、部に参加することを促す。

3 教職員の指導力向上の推進							
学校全体で主体的な学びを推進し、組織的に授業改善に努める。	研究授業の参観割合 50%	新規	50%	61%	B	(教務部, 教育研究部, 教科・学科) 【授業参観割合】 第1回調査(6/8) 51% 第2回調査(11/2) 21% 年間授業参観者:61% 年間を通して、研究授業の参観割合が、目標値を11ポイント上回った。	教務部 教育研究部 教科・学科
	授業評価アンケートの肯定的な評価割合	新規	70%	71%	B	(教務部, 教育研究部, 教科・学科) 【肯定的評価割合】 前期:71% 後期:3月実施予定 授業アンケート前期調査で、肯定的評価の割合が、目標値を1ポイント上回った。	

《研究授業等に参加し、授業改善を図る》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 研究授業週間中に、全教員が他教員の授業を最低1回は参観するという行動計画の中、今年度における研究授業週間での校内教員の授業参観割合は、第1回は 51%、第2回は 21%で、年間を通しては 61%で目標値を上回り、昨年度より大きく増加した。また、授業アンケートでは、肯定的評価の割合が 71%で、目標値を若干上回った。

(2) 課題

- 研究授業週間及び公開研究授業が一行事的にこなしているように感じられ、「主体的な学び」の推進を念頭に置いた校内研修の一環として積極的な参観を促す必要がある。また、授業アンケートの結果をもとに、今年度末に教務部で作成した「県工スタンダード」を全教員で共通理解を図り、学校全体での実践に向けてより一層の意識の高揚を図る必要がある。

【今後の改善方策】

- 研究授業週間及び公開研究授業を実施することの意義やねらいを学校全体で確認し、実践と参観の啓発を図りながら授業改善につなげ、「主体的な学び」を推進していく。また、「県工スタンダード」を学校全体で取り組むことで、学校及び各教科・学科で定めた生徒への資質・能力の育成を実現するとともに、生徒が満足する授業を提供する。

4 安全・安心・清潔な学校づくり							
安全で清潔な学習環境をつくる。	大掃除実施数	12回	12回	12回	A	(保健厚生部) 計画どおり実施し、校内は常にきれいに保たれている。	保健厚生部
	年間1日平均遅刻件数(人/日)	1.37	1.28	1.00	A	(生徒指導部・1学年) 全体的に浸透し、落ち着いた生活ができている。しかし、一部の生徒で意識が低い部分がある。	生徒指導部 1学年会

#### 〈安全で清潔な学習環境をつくる〉

##### 〈美化活動の徹底〉

##### 【評価結果の分析】

##### (1) 成果

- 校内は常にきれいに保たれていて、外部から来られた方に気持ち良く過ごしていただき、評価もされている。
- 掃除と合わせて整理整頓をすると言ったところ、主体的に整理整頓するクラスが増えた。

##### (2) 課題

- 一部、清掃が不十分な掃除箇所があり、生徒に十分に徹底した指導をしきれていない部分もある。

##### 【今後の改善方策】

- 清掃活動は生徒指導の一環であり、全教職員に主体的に安全で清潔な環境をつくる生徒の育成に取り組ませる。

##### 〈基本的な生活習慣の確立〉

##### 【評価結果の分析】

##### (1) 成果

- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は1.00件(人/日)と、目標値を達成することができた。しかし、一部の生徒で、複数の「体調不良」、「寝坊」、「不注意(家を出る時間が遅かった)」という理由での登校遅刻があった。(1/19までの登校遅刻数180件(前年度比-71件)、遅刻ゼロ日76日前年度比+4日)。
- 授業遅刻に関して、前年度比-127件と減少した。前年度は、集団で教室移動の遅れが目立っていたが、今年度は集団での遅刻が無かったことが減少の要因の一つと考える。
- 問題行動に関して、生徒朝礼など全体指導や学年集会などでの生徒指導主事や学年主任等の指導もあり、前年度比-13件減少した。
- 1年生は、1月末で遅刻者62人であった。1日あたりの遅刻者は0.36人であり、昨年度に比べ遅刻数は減少した。

##### (2) 課題

- 一部生徒で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を育成させる必要がある。



る。

- 登校遅刻を繰り返す生徒など家庭と連携して、生活習慣の改善を図る必要がある。(8:35～45の10分間での遅刻が多い。)
- 登校遅刻及び授業遅刻を減少させ、遅刻ゼロ日を増加させる。
- 授業の途中でトイレ退出する生徒がおり、休憩時間の使い方を考えさせ、授業に対して集中できる体制をつくらせる必要がある。
- 1年生は遅刻の回数は昨年度よりも少ないものの、欠席や早退が他学年に比べて多かった。

【今後の改善方策】

- 生徒の規範意識のために、教員1人1人の生徒指導力の向上も必要であり、生徒指導に係る研修会を実施する。
- 全教職員が協力して、頭髪服装指導、校門指導、巡回指導等を組織的、計画的に実施する。
- 学年会及び生徒指導部は、生徒状況を的確に捉えるため、校内関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や、情報の共有化を図り、組織的な指導をする。
- 1学年は、生徒一人一人の基本的な生活習慣の確立を目指し、自分の健康管理をきちんとさせていく。そのためにも、家庭や中学校との連携や教員間の情報の共有化を図り、生徒状況を的確に捉えて指導していく。

5 生徒の進路希望を実現						
就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成し、3学年生徒全員は、進路決定後に、卒業する。	就職試験 一次合格率	92.2%	95.0%	93.4%	(進路指導部) 就職試験一次合格率は昨年度を上回った。各会社採用担当・本校OBとの連携で、求人倍率が8.1(社/人)と全国平均の約4倍の求人を頂けた。公務員採用予定も昨年同様の高水準11名となった。進学指導では生徒に学力を身に付けることの必要性を説き、合格前後で変わることなく放課後補習を継続した。進学者の評定平均は1学期の値を維持し、昨年より改善できた。その結果、過去15年で最多の4名を国公立大学合格に導いた。 (3学年会) 担任を中心に、進路を決めさせる指導を、最後まで粘り強く行った。放課後、休み時間、夏休みも使い、個々に指導した。生徒は本校での様々な学びを活かし、進路実現を果たした。	進路指導部 3学年
	3学期末 5段階平均 3.94	3.87	3.94	3.93		
	3年1学期 5段階平均 4.00	4.00	4.00	4.02		

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 就職希望者の第一次合格率は93.4%となり、高水準となった。
- 縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者212名中、196名の生徒が1回目の採用試験で内定した。就職希望者は1月末時点で100%内定した。とりわけ、公務員は11人が採用となり、昨年同様高い合格率を維持した。
- 学校長推薦者・大学進学希望者の評定平均値は1学期末4.02、学年末3.93となり、目標値を達成した。また、過去15年で最多の4名の生徒を国公立大学(山口大学2名、島根大学1名、大分大学1名)合格へ導くことができた。
- 担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導、学科教員の専門教科の補習、進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補

習・定期考査毎の進学集会(受験計画・志望理由等の一斉指導)などにより、AO・推薦入試を計画的に頑張る生徒が増え、自主的に学ぶ雰囲気が高まった。また、多くの生徒が合格後も大学の課題と共に、推薦進学者学習進捗度テストに意欲的に取り組み、学ぶ姿勢を高めた。

○進路探究について、進路 LHR、進路希望調査、三者懇談、また応募前見学、複数校のオープンキャンパス参加・比較検討を促し、的確に情報を提供した。

## (2)課題

○就職一次試験の不合格理由は面接試験が主な原因のため、来年度に向けて取り組みの改善が必要である。

○評定平均値は、生徒の進学意識、主体性の高まりとともに目標値に達成している。現 2 年の生徒に既に 8 月の国立大学 AO 入試出願を考える進学希望者も増えており、指導体制を整備していく必要がある。

○早期の合格者が継続的に高みを目指して勉強できるように、卒業まで学ぶ取り組みを継続的に粘り強く仕掛けていく必要がある。

## 【今後の改善方策】

○来年度に向けて、早期に進路希望を固めさせ、インターンシップの指導、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。

○国公立大学等進学者を中心に引き続き、学力試験対策及び小論文、志望理由書、面接等の指導を徹底して行う。

○2年生の3学期から早期に志望動機を作成させ、推敲を重ね、自分について深く考えさせる機会を設け、進路意識を高めさせる。

○進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

## 平成29年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	081	学校名	広島県立広島工業高等学校	校長氏名	中村充宏	Ⓐ・定・通	Ⓑ・分
----	-----	-----	--------------	------	------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

## ①ものづくり人材の育成

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上及び、ジュニアマイスター認定者数について》

○ジュニアマイスター顕彰については、前期、後期合計52人が認定され、認定者数は過去最多になった。また、ジュニアマイスター顕彰制度では、5名が表彰された。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝》

○高校生ものづくりコンテスト化学分析部門全国大会に出場し、見事優勝そして3位入賞を果たした。

○若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として出場した。また、その生徒は高校生ものづくりコンテスト木材加工部門全国大会にも出場した。

○若年者ものづくり競技会 職種フライス盤作業に出場し、敢闘賞に入賞した。

○高校生ものづくりコンテスト 測量部門中国地区大会では4年連続で優勝し、全国大会に出場した。

○全日本ロボット相撲大会中国大会高校生の部に出場し、4位になった。

○ジャパンマイコンカーラリー2018 中国地区大会アドバンス部門に出場し、優秀な成績で、全国大会に出場した。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○OSET, 企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2級技能士旋盤作業 (3/5), 2級技能士フライス盤作業(1/2), 2級技能士鋳造作業 (0/2), 3級技能士旋盤作業(24/28), 3級技能士鋳造(10/10), 3級技能士機械検査(30/48), 3級機械プラント製図(2/3)	70人
電気科	第2種電気工事士(合格77人/85人 : 上期合格73人/81人: 下期合格4人/4人) 第1種電気工事士(合格31人/49人)	108人
建築科	2級建築施工管理技術検定7人(受験89人), 建築大工3級16人(受験20人), 建築大工2級10人(受験10人), とび3級12人(受験12人), 左官3級13人(受験13人), 2級0人(受験1人), 建築CAD検定3級13人(受験13人), 2級2人(受験3人)	73人
土木科	測量士補 7人(受験10人), 2級土木施工管理技術検定12人(受験20人)	19人
化学工学科	危険物取扱者 甲種1人(受験1人), 乙種18人(受験61人)	19人

## ②選ばれる学校づくり

《入学希望者の増加を目指す》

○オープンスクールへの参加人数は県内の中学生が減少する中、昨年度と同水準の参加数となり、入学者選抜Ⅰ・Ⅱにおいて昨年よりも0.5%増加した。

○オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は98.6%で昨年度を上回ることができた。

○全国大会出場は昨年より増え、県大会入賞数は目標を大幅に上回った。

○各学年の加入率は、1年生91%、2年生87%、3年生89%と、昨年度より若干減少したが高水準を維持している。

## ③教職員の指導力向上の推進

○研究授業週間中に、全教員が他教員の授業を最低1回は参観するという行動計画の中、今年度における研究授業週間での校内教員の授業参観割合は、第1回は51%、第2回は21%で、年間を通しては61%で目標値を上回り、昨年度より大きく増加した。また、授業アンケートでは、肯定的評価の割合が71%で、目標値を若干上回った。

## ④安全・安心・清潔な学校づくり

○校内は常にきれいに保たれていて、外部から来られた方に気持ち良く過ごしていただき、評価もされている。

- 掃除と合わせて整理整頓をするよう言ったところ、主体的に整理整頓するクラスが増えた。
- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は1.00件(人/日)と、目標値を達成することができた。
- 授業遅刻に関して、前年度比-127件と減少した。前年度は、集団で教室移動の遅れが目立っていたが、今年度は集団での遅刻が無かったことが減少の要因の一つと考える。
- 問題行動に関して、生徒朝礼など全体指導や学年集会などでの生徒指導主事や学年主任等の指導もあり、前年度比-13件減少した。
- 1年生は、1月末で遅刻者62人であった。1日あたりの遅刻者は0.36人であり、昨年度に比べ遅刻数は減少した。

#### ⑤生徒の進路希望を実現

- 就職希望者の第一次合格率は93.4%となり、高水準となった。
- 縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者212名中、196名の生徒が1回目の採用試験で内定した。就職希望者は1月末時点で100%内定した。とりわけ、公務員は11人が採用となり、昨年同様高い合格率を維持した。
- 学校長推薦者・大学進学希望者の評定平均値は1学期末4.02、学年末3.93となり、目標値を達成した。また、過去15年で最多の4名の生徒を国立大学(山口大学2名、島根大学1名、大分大学1名)合格へ導くことができた。
- 担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導、学科教員の専門教科の補習、進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補修・定期考査毎の進学集会(受験計画・志望理由等の一斉指導)などにより、AO・推薦入試を計画的に頑張る生徒が増え、自主的に学ぶ雰囲気が高まった。また、多くの生徒が合格後も大学の課題と共に、推薦進学者学習進捗度テストに意欲的に取り組み、学ぶ姿勢を高めた。
- 進路探究について、進路LHR、進路希望調査、三者懇談、また応募前見学、複数校のオープンキャンパス参加・比較検討を促し、的確に情報を提供した。

## (2) 課題

### ①ものづくり人材の育成

- 《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上及び、ジュニアマイスター認定者数について》
- ジュニアマイスター認定に向けて、生徒各自の意識を高めていく取り組みが必要である。
- 《ものづくりコンテストでの入賞・優勝》
- 高校生ものづくりコンテスト全国大会において上位入賞する選手を育成するためには、生徒の指導方法を工夫・改善する必要がある。
- 全国大会レベルの高い技術力の向上のためには、生徒を教える教職員の技術力、指導力の向上も必要である。
- 生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるとはならず、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。
- 《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》
- この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるが、指導できる教員の数とその指導力向上が必要である。
- 資格・検定取得が継続的な取り組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のための指導及び啓発活動が必要である。

### ②選ばれる学校づくり

- 《入学希望者の増加を目指す》
- オープンスクールにおいて、中学生参加人数増加に向けた取り組みが必要である。
- HPの更新回数は増えたが、“中学生が見たい”と思う、Webページの更新は不十分であった。
- 部活動に入部していない生徒に対して、入部させ活動させることが課題である。

### ③教職員の指導力向上の推進

- 研究授業週間及び公開研究授業が一時的にこなしているように感じられ、「主体的な学び」の推進を念頭に置いた校内研修の一環として積極的な参観を促す必要がある。また、授業アンケートの結果をもとに、今年度末に教務部で作成した「県工スタンダード」を全教員で共通理解を図り、学校全体での実践に向けてより一層の意識の高揚を図る必要がある。

### ④安全・安心・清潔な学校づくり

- 一部生徒で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を育成させる必要がある。
- 登校遅刻を繰り返す生徒など家庭と連携して、生活習慣の改善を図る必要がある。(8:35~45の10分間での遅刻が多い。)
- 登校遅刻及び授業遅刻を減少させ、遅刻ゼロ日を増加させる。
- 授業の途中でトイレ退出する生徒がおり、休憩時間の使い方を考えさせ、授業に対して集中できる体制をつくらせる必要がある。
- 1年生は遅刻の回数は前年度よりも少ないものの、欠席や早退が他学年に比べて多かった。
- 一部、清掃が不十分な掃除箇所があり、生徒に十分に徹底した指導をしきれていない部分もある。

- 一部生徒で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を育成させる必要がある。
- 登校遅刻を繰り返す生徒など家庭と連携して、生活習慣の改善を図る必要がある。(8:35~45の10分間での遅刻が多い。)
- 登校遅刻及び授業遅刻を減少させ、遅刻ゼロ日を増加させる。
- 授業の途中でトイレ退出する生徒がおり、休憩時間の使い方を考えさせ、授業に対して集中できる体制をつくらせる必要がある。
- 1年生は遅刻の回数は昨年度よりも少ないものの、欠席や早退が他学年に比べて多かった。

#### ⑤生徒の進路希望を実現

- 就職一次試験の不合格理由は面接試験が主な原因のため、来年度に向けて取組みの改善が必要である。
- 評定平均値は、生徒の進学意識、主体性の高まりとともに目標値に達成している。現2年の生徒に既に8月の国立大学AO入試出願を考えた進学希望者も増えており、指導体制を整備していく必要がある。
- 早期の合格者が継続的に高みを目指して勉強できるように、卒業まで学ぶ取組みを継続的に粘り強く仕掛けていく必要がある。

## 2 今後の改善方策

### ①ものづくり人材の育成

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上及び、ジュニアマイスター認定者数について》

- LHR等において生徒に資格・検定の取得計画を作成させ、受験意識の醸成を図る。
- 資格取得において顕著な成果が得られた場合には、HPIに随時掲載するなどして、資格・検定取得にチャレンジする意欲の高揚を図る。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝》

- 加工及び作業の精度を上げるとともに、スピードアップも図るなど、すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用し、生徒の技術力向上に取り組むとともに、その指導方法を学び、教職員の指導力向上にもつなげる。
- 教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、指導力を高め、SETと協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。

○教職員が、SET、企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

### ②選ばれる学校づくり

《入学希望者の増加を目指す》

- 中学生を対象にPRするために、中学2年生から本校を検討してもらう機会として、冬季オープンスクールの実施を計画する。
- 来年度オープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。
- 中学校訪問については、中学校との窓口になる担当者を決め、情報提供を適宜行い、信頼関係を築く。その上で、中学校主催の高校説明会への参加や、本校出前授業の受入れを中学校に提案し、検討いただく。
- HPIには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。
- 部活動に加入していない生徒には、担任、副担が学年会と協力しながら、部に加入することを促す。

### ③教職員の指導力向上の推進

- 研究授業週間及び公開研究授業を実施することの意義やねらいを学校全体で確認し、実践と参観の啓発を図りながら授業改善につなげ、「主体的な学び」を推進していく。また、「県工スタンダード」を学校全体で取り組むことで、学校及び各教科・学科で定めた生徒への資質・能力の育成を実現するとともに、生徒が満足する授業を提供する。

### ④安全・安心・清潔な学校づくり

- 清掃活動は生徒指導の一環であり、全教職員に主体的に安全で清潔な環境をつくる生徒の育成に取り組ませる。
- 生徒の規範意識のために、教員1人1人の生徒指導力の向上も必要であり、生徒指導に係る研修会を実施する。
- 全教職員が協力して、頭髪服装指導、校門指導、巡回指導等を組織的、計画的に実施する。
- 学年会及び生徒指導部は、生徒状況を的確に捉えるため、校内関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や、情報の共有化を図り、組織的な指導をする。
- 1学年は、生徒一人一人の基本的な生活習慣の確立を目指し、自分の健康管理をきちんとさせていく。そのためにも、家庭や中学校との連携や教員間の情報の共有化を図り、生徒状況を的確に捉えて指導していく。

⑤生徒の進路希望を実現

- 来年度に向けて、早期に進路希望を固めさせ、インターンシップの指導、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。
- 国公立大学等進学者を中心に引き続き、学力試験対策及び小論文、志望理由書、面接等の指導を徹底して行う。
- 2年生の3学期から早期に志望動機を作成させ、推敲を重ね、自分について深く考えさせる機会を設け、進路意識を高めさせる。
- 進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

全体として適切な目標値が設定され、達成目標に向けての行動目標が適切にリンクしており高い評価をいただいた。部活動の参加率をあげることにより、文武両道の校風や規律と礼儀を重んじる人間教育を進め、また、進学希望者に対してもインターンシップに参加させるなどの取組により、工業教育の牽引的な役割を果たす拠点校としての役割を果たしていきたい。

平成 29 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30 年 3 月 30 日

校番	81	学校名	広島県立広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全・定・通	本・分
----	----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	前年度の結果を元に目標値が設定され, 今年度はそれを上回る実績がでている。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	実績値が目標値を上回るものはA, 同等のものはBと評価しており, 適切である。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	それぞれの達成目標に対して, 適切に取り組まれている。
評価結果の分析の適切さ	A	成果と課題が正確に分析されている。
今後の改善方策の適切さ	B	限りなくAに近いBである。クラブ活動の参加を更に盛り上げてもらいたい。インターシップの参加状況については, 進学希望の生徒も取組ませてもよいと感じる。
総合評価	A	学校が何を指し, どのように取組んでいるか, また今後どのようにしていくかがよくわかる評価となっている。